

1月15日朝会の校長の話(概要)

2024年のたつ年が幕を開けました。元旦早々、石川県で大きな地震があったことは毎日のテレビのニュースなどで、みなさんも知っていることでしょう。その日校長先生は、お隣の富山県にいたので、震度5強という恐怖を感じる大きな揺れを体験しました。そして、実家は港の近くで津波警報が出たので、田舎のおじいちゃんやおばあちゃん、家族を連れて、車で山の方へと避難しました。日本海の津波は早くて8分ほどで来るとのことで、生きた心地がしませんでした。そして、災害は日を選んでくれずに突然くるものだと思改めて感じました。そして、学校で学べることは決して当たり前じゃないと思いました。石川県だけではなく、ウクライナやイスラエルなど、世界には戦争や紛争で、学校で学びたくても学べない子供たちがたくさんいます。今日は始業式です。新たな目標をもつための式です。みなさんには、毎日の学校で勉強したり友達と過ごしたりして生活できる幸せを感じつつ、3学期の目標をもってほしいと強く願っています。今日は最後に、日本が東日本大震災に被災したときに、ブータンというアジアの国から王族の方がお見舞いに来た時の龍の話をして終わります。

皆さんは、龍を見たことがありますか？私にはあります。王妃もありますね。龍は何を食べて大きくなるのか知っていますか？龍は、経験を食べて大きく成長していくのです。私達一人一人の中に「人格」という名の龍が存在しているのです。その龍は、年を取り、経験を食べるほど、強く、大きく、なっていきます。人は、経験を糧(かて)にして、強くなることのできるのです。そして何よりも大切なことは、自分の龍を鍛えて、きちんとコントロールすることです。この「龍」の話を、私がブータンの子供たちにする時には、同時に、「自分の龍を大切に養いなさい、鍛錬しなさい」ということを言っています。わがままを抑えることや、感情をコントロールして生きることが大切なのです。『ワンチュク国王から教わったこと』PHP研究所より